

課題名：IPM（総合的害虫管理のうち土着天敵温存植物の利用） による安全安心な農産物生産技術の普及

ねらい

徳島県の露地ナスはミナミキイロアザミウマの防除に多大な労力を要しています。また、全国ではアザミウマ類等の微小害虫の薬剤抵抗性が発達し防除に苦慮しています。これらのことより、全国で天敵を活用した生物的防除が取り組まれています。特に露地野菜では、土着天敵温存植物（インセクタリアープラント）による効率的誘因・温存法の研究が進んできています。このような研究成果を活用し、天敵温存植物の植栽を核とした土着天敵活用技術を生産現場に普及していきます。これにより、農薬の過度の連用を防ぐことによる薬剤抵抗性の発達抑制、防除作業の労力軽減を図り、持続的で安定的な生物多様性農業生産を実現します。

活動地域・対象

県内全域（徳島市、板野郡、阿波市、美馬市、三好市、海陽町）の夏秋ナス生産者

普及活動の目標

- 土着天敵を活用した防除体系を県内全域に普及します。
 - ・天敵温存植物の効率的な利用技術の普及
 - ・土着天敵を有効に活用するための農薬使用方法の普及
- 防除労力軽減と薬剤抵抗性発達抑制を実現します。
 - ・土着天敵活用による防除回数の削減、薬剤抵抗性発達の抑止

目標に向けた活動概要

- 1) 実証展示圃の設置、展示圃における土着天敵とアザミウマ類の発生推移の調査及び効果分析
- 2) 成果の周知：現地検討会・実績説明会の開催
- 3) 技術情報収集：先進地視察
- 4) 成績検討会の開催



アザミウマを捕食中の天敵



現地検討会の様子



オクラ「まるみちゃん」を植栽した展示ほ場



マジョールト種子を手にする生産者(左)、ルーフで天敵を観察する生産者(中央)

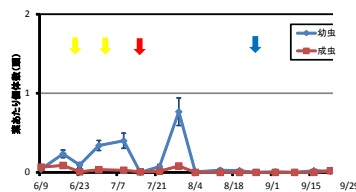
普及活動の成果

1) 実証圃における調査結果

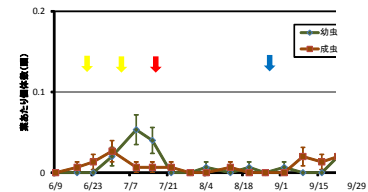
- ・オクラには安定的に土着天敵ヒメハナカメムシが発生しました。
- ・ナスとオクラにおけるヒメハナカメムシの発生消長は同調していたことから、オクラ植栽によりナス圃場にヒメハナカメムシが温存できると考えられた。
- ・ナス圃場でのヒメハナカメムシ定着には天敵に影響の少ない薬剤の選択が重要であることがわかりました。
- ・天敵に優しい農薬と天敵温存植物の利用により防除回数を削減できる。

ナスとオクラにおけるアザミウマ類とヒメハナカメムシ類の発生推移

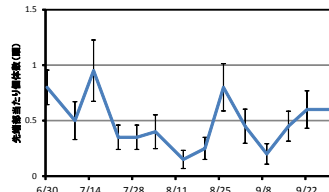
ナス葉におけるアザミウマ類



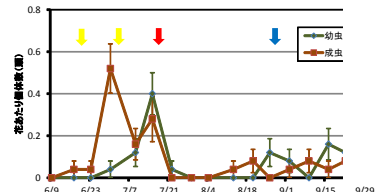
ナス葉におけるヒメハナカメムシ類



オクラにおけるヒメハナカメムシ類

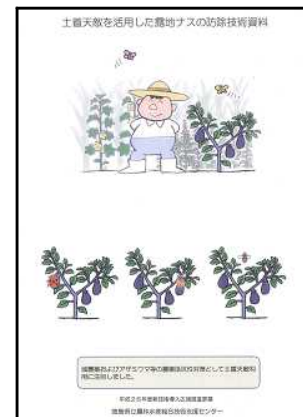


ナス花におけるヒメハナカメムシ類



↓：非選択性薬剤 ↓：ピリフルキナゾン ↓：選択性薬剤

- 2) 成果の周知：現地検討、実績説明会(講習会)を計8回実施し、技術の周知と生産者の意識が高まりました。
- 3) 技術情報収集：展示圃成果に対し、専門家(宮崎大学)に評価してもらい、今後の問題点が明らかになりました。
- 4) 成績検討会：成果の周知と今後の取り組みの方向性を決めました。
- 5) 技術資料の作成(周知用パンフレットの印刷)：
技術資料の作成・配布により生産者に対する技術周知ができました。



用語
説明

天敵温存植物は、インセクタリアープランツとも呼ばれ、害虫を食べてくれる天敵などを誘引したり、その餌源となる花蜜を提供することで天敵の活動を高める、いわば「天敵のレストラン」のような植物です。

今後の発展方向

更に使いやすく効率的な天敵温存植物の検索。天敵温存植物と農薬の使用方法の周知。ハウス作型と連携した効率的な天敵の利用の検討。

関係者からの声

展示圃実施産地のJA、生産者からは、取り組みを続けてほしいとの意見をいただいています。展示圃実施以外の産地でも指導を強めてほしいとの意見を頂いています。

農林水産総合技術支援センター高度技術支援課

連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922